

## 環境振動シンポジウム検討WG 第3回議事録（案）

- A. 日 時 2015年10月27日 火曜日 17:30～18:45
- B. 場 所 建築学会 307会議室
- C. 出席者 富田主査 他9名+講演者4名
- D. 提出資料（提出委員名）
  - No.3-01 環境振動シンポジウム検討WG第2回議事録（案）
  - No.3-02 環境振動シンポジウム 会告
  - No.3-03 環境振動シンポジウム 実施計画書
  - No.3-04 原稿依頼について
  - No.3-05 居住性能評価指針改定に関する資料他
  - No.3-05 JSCA資料（長周期地震動対策の制震改修について）

### E. 議事内容

1. 議事録確認（資料 No.3-01）
  - 曾根孝行「氏」を追加
  - 阿倍野→あべの
  - 上記の修正をもって、了承された。
2. 資料 3-4 に基づき原稿依頼の確認  
締め切り 12/25, 主旨文は 1/15
3. 各議題についての確認  
各テーマの流れ  
（主旨は安全性と居住性の両立）

日建設計, 小西厚夫様

スカイツリーに関して, 展望台での居住性にも触れて話す。

構造設計に関してはいろいろな既発表がある。

固有周期が 10 秒程度, 居住性には有利な面もある。

風が主な外力であり, 外力の設定についても多少概念的かもしれないが話は可能。

特殊な構造物で高次モード（アンテナのモード）も制御対象にしている。

PD で多少話を振ってもよいか? → 事前にある程度のは準備可能

竹中工務店, 平川恭章様

安全性に関する内容が増える。建物は地震が主な外力である。

マスダンパーが設置されている。

タイトルは「あべのハルカス, 安全・安心のデザイン」

居住性能評価指針は施主と話す際の資料になるので一般の人に近い視点がよい。

H-10 と H-30 の間を目安にクライテリアを設定している。

指針についてはどの程度オーソライズされているのか?

振動台実験で体感する場合, 被験者が意識してしまう。

鹿島建設, 黒川泰嗣様（資料 3-6 : JSCA にて配布されている資料あり）

新宿三井ビル, 3.11 の長周期地震動対策

揺れ低減という目的で TMD を設置（安全・安心）

原稿は構造設計，装置の開発，地震に対する安全性  
耐震補強ではない，改修（付加価値向上）  
3.11 の地震に関しては ppt である程度示すことが可能  
揺れに関する恐怖心，行動難度なども PD で紹介可能  
風揺れに関する程度対応可能  
超高層ビルの場合，長周期地震に対しては風と同様に対策が必要。  
TMD は対長周期地震用で風にも効果を発揮する。  
居住性能評価指針に関しては，用途ごとの目安を学会で決めてほしい。知覚の場合，  
施主への説明が難しい。

積水ハウス，東田豊彦様  
電車，道路，工場などによる振動を紹介する。  
木造は面材のため揺れにくい，鉄骨ラーメンは揺れやすい。  
（鉄骨造 3 階以上には TMD を標準で取り付けている）  
TMD がコミュニケーションのツールになっている。  
道路振動に対しては，建物自体が上下に揺れる場合もある。対策が難しい。

横山先生（資料 3-5）  
構造設計と居住性に関する設計の比較  
張弦梁や，剛性梁の例に触れる。  
継続時間に関する性能評価曲線の補正の話の説明する。  
評価指針と設計指針（資料）の分離についても説明する。

PD：司会，志村氏，壇上に 9 名，レイアウト変更は休憩中に行う。  
原稿が揃った段階(12/25)で，富田主査から WG 委員に原稿を配布する。  
→ 各委員は PD での話題についての案を，志村委員にメールで送ること。  
質問用紙は？ → 富田主査の方で準備する。  
→ 当日は休憩中に回収し，全体司会が PD までに整理する。

#### 4. その他

資料 3-3 に基づき，実施計画書を説明し，承認された。

次回，当日 12:30 に会場に集合  
シンポジウム前に PD に関する打ち合わせを行う。

以上